

2019年9月30日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 529

“この人に聴き、語り合う” ——

高等教育政策決定過程の変容と大学のスタンス

～官邸主導政策形成は何をもたらしているか～

《10月23日（水）開催》

ご参画・ご派遣のお願い

【講師】羽田 貴史 氏

(国) 東北大学 名誉教授 (国) 広島大学 名誉教授

公正研究推進協会 (APRIN) 理事

日本の政治・行政体制は、2000年代初めの政治改革と政権交代、中央省庁改革による省庁再編と独立行政法人制度の導入など行政改革を通じた政治的リーダーシップの強化と省庁縦割りを越え、官邸主導による集権化が進行している。

近時の高等教育政策は、政策決定過程の変化の下で、首相直属の審議会や会議から発信される提言をもとに行われ、高等教育機関の種別化と再編成、評価による資源配分が行われている。しかし、これらの政策は不確かなデータや根拠に基づき、高等教育の多様な役割と機能を解体し、大学の自治と自主性を損なう深刻なものである。

政策は、国民の幸福や平等・自由の保障という理念の実現手段でもあり、関係者の利害を調整し、事実やデータに基づいて決定・実施されるべきである。政策の問題は、それを生み出す決定過程の問題としても捉える必要がある。

こうした問題設定のもと 2010年以降の高等教育政策決定過程の変容と、進められている政策について、批判的立場から検討するものである。 (羽田 貴史)

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。

パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/191023.pdf>